

昭和五十五年卒業生卒業論文題目

△日本文学古代前期△

記紀から万葉へ

泣血哀慟歌二首—人麻呂挽歌の文学性—

柿本人麻呂の枕詞

—長歌の抒情とのかかわりについて—

人麻呂殯宮挽歌論考—その成立をめぐって—

人麻呂の文芸意識—石見相聞歌をめぐって—

山部赤人の吉野讃歌

東国人の国名意識

—東歌の国名表現歌をめぐって—

△日本文学古代後期△

美しさと哀しみ

竹取物語—伝承と現在—

言語形式からみた菅原道真の歌詩作品

和歌の復興と古今調形成をめぐる考察

第一次伊勢における業平の実像と虚像

『伊勢物語のみやび』

「伊勢物語」のテーマを求めて

伊勢物語 伝承世界の主人公

『伊勢物語』の美的理念—色好み小考—

『蜻蛉日記』—道綱母の執筆意識—

『蜻蛉日記』—その執筆意識—

蜻蛉日記—道綱母とその執筆意識—

清少納言の精神構造

『和泉式部日記』夢よりものはかなぎうたの世界

和泉式部の和歌の性格と後拾遺集撰入歌

和泉式部日記 愛のかたみ

和泉式部日記における虚構について

『紫式部日記』—女房として生きること—

源氏物語試論—完結体として的一部世界の諸相—

岩崎美鶴

川田裕美子

高木照世

一色知代

広島陽子

市川ひとみ

前田泰子

中本正人

浜田美穂

松尾隆之

宮垣淳子

中野珠美

神谷多佳子

戸田光宣

藤田友紀

夕霧論—源氏物語二部世界の一考察として—

和歌に見る紫上世界の変遷

—源氏物語二部世界の精神—

第二部光源氏物語試論

紫上の自己意識—源氏物語二部世界への一考察—

元山千鶴

片桐常雄

谷口孝介

山口恵子

有光ひとみ

△日本文学近世△

浮舟物語

上田 敦子

『更級日記』その物語と夢

松島 邦子

『好色五人女』研究史—主題論を中心に—

高橋千寿子

『今昔物語集』に於ける、「武士」、「受領」の研究

栢原万里子

『好色五人女』研究
—「忍び扇の長哥」との関連において—

山本ますみ

『日本永代蔵』論

利倉 弘子

『今昔物語集』巻第二十七の独自性について

黒多 昭

近松世話物における遊廓と遊女

村井美奈子

『出世景清』論—景清をめぐる女性を中心に—

野村 昌代

近松心中浄瑠璃の展開

春名加与里

△日本文学中世△

増賀上人説話の検討—収録文献の比較—

神居 義之

道行文考—中世道行文を中心として—

日野 陽子

建礼門院右京大夫集

大山 和代

—詞書と和歌との関係について—

竹内 清恵

阿仏尼雜感

中野 正樹

覚一本『平家物語』における重衡像

谷村 茂

—語り流動をめぐって—

永島 委久子

『延慶本平家物語』の構想に関する一試論 怨霊

永島 委久子

意識の抽出と検討

永島 委久子

「鶴女房」から「鶴の草子」へ

永島 委久子

—『御伽草子』をめぐる—

永島 委久子

『心中天網島』について
『心中天網島』

小西裕紀子
藤川 典子
米田 康子

『国性爺合戦』の成功について 各場の趣向を中心に
『娥哥かるた』論

鈴木 一夫

「傾城反魂香」論—女主人公みやを中心にして—
『今宮心中』の悲劇性について
『冥途の飛脚』の悲劇性について

溝上 敦子
西田 恭子
道下 香代

『冥途の飛脚』—梅川・忠兵衛について—

東条 富久子

「女殺油地獄」

船越めぐみ

志賀直哉論―「根源的な自然」の認識・

『心中宵庚申』と『心中ニツ腹帯』との比較

竹山比呂子

「調和」ということ―

粟津ゆかり

「菊花の約」とその原話について

平井典子

宮沢賢治『銀河鉄道の夜』

二宮真利子

「浅茅が宿」の構想と主題

大橋みゆき

梶井基次郎作品論―『Kの昇天』まで―

菊川保誠

「吉備津の釜」出典研究史

鈴木良子

梶井基次郎―『のんきな患者』への道―

沖とき子

一茶論（一茶と子供たち）

園城直子

「堀辰雄論」 初期の文学について

田村真哉

古典落語―廓ばなしの笑い

杉原由美

初期中原中也論―ダダから「朝の歌」まで―

沖田厚志

樋口一葉『にぎりえ』考

市川恵子

金子光晴研究―歪められた美意識―

中山平久

「高野聖」論

宮島肇

「大宰治」ノート

西川公規

『行人』考

阿曾好

中島敦論

寺田康彦

夏目漱石『こゝろ』論

里村日斗美

「小林秀雄と坂口安吾」

沢敏夫

『明暗』論―構造と方法―

桑原一雄

原民喜論

岡本憲明

「芥川龍之介論」

入江成治

椎名麟三『邂逅』―そのユーモア―

西村幸二

芥川龍之介『藪の中』論

荒川悦子

「鮎川信夫論」

野田順子

芥川龍之介―『地獄變』研究―

渡部玲子

安部公房論

古藪真一

啄木の自然主義への距離

阪口和義

高橋和巳論―『邪宗門』から―

友安武弘

「浄罪詩篇」論

内山卓子

灰谷健次郎小論

本郷京子

『月に吠える』論序論―「浄罪」の彼方に―

野田博志

灰谷健次郎作家論

藤沢真美

△国語学△

執筆者紹介

三浦命助著「獄中記」における江戸末期口語表現の考察

松下貞三 本学教授

熊田彦弥太

廣川勝美 本学教授

「太宰治の文体小考」

森岡公隆

広田 収 本学大学院昭和五十年度修了生

日本語における呼びかけ語について

本学講師

昭和の流行歌を中心に

中村美智子

土橋 寛 本学名誉教授

漢字教育の諸問題

円田 百子

明川 忠夫 本学昭和三十五年度卒業生

普通名詞化—普通名詞用法のある固有名詞—

岩城 恵子

橋本昌代 同志社香里中高等学校教諭

擬音語・擬態語の一考察

本学大学院昭和五十三年修了生

—擬情語の中国語表現との対照—

岩根 則子

成安女子短期大学講師

推量の助動詞「らし」の変遷

久保田 孝夫 本学大学院昭和五十一年修了生

—用法を中心に—

竹内 康子

同志社香里中高等学校教諭

昭和五十五年度修士論文題目

『源氏物語』試論 女三の宮の降嫁をめぐる

小島 繁一 本学大学院昭和五十三年修了生

—物語の論理と主題性の連関—

松田 薫

プール学院中高等学校教諭

源氏物語第三部世界主題試論

森 俊樹

本学大学院昭和五十三年修了生

『思女集』論

広岡 曜子

本学大学院昭和五十三年修了生

義経像の成立と展開—『義経記』を中心として

守本 進

中野重治論

岸 健治